

小学校・中学校 総合的な学習の時間

重点1 探究的な学習の過程を中心に据える

探究的な学習の過程が繰り返される学習になるようにしましょう。

- 「探究的な学習の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が繰り返される学習となっている。

重点2 学習内容、学習方法を見直す

学校ごとに「目標」および「内容」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。「内容」は「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなります。

- 児童生徒にとって必要感のある課題、実社会・実生活に係る課題を取り扱い、児童生徒の興味・関心等に基づく学習となっている。
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習となっている。
- 自然体験や職場体験、ボランティア活動等の体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れている。
- 小・中・高の連続性、発展性を意識した学習内容になっている。

重点3 各教科等との関連を図る

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な学習の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を育成する取組となっている。
- 単元配列表を作成・活用し、育成を目指す資質・能力で各教科等をつなぎ、指導している。

○小・中・高を通じて身に付けさせたい資質・能力（目指す子どもの姿）

- 実社会・実生活における課題に対して粘り強く解決に向かって探究している。
- ・島根の現状、地域の現状を理解し、自ら課題を発見している。
 - ・唯一の正解が存在しない課題にも、様々な教科等で学んだ見方・考え方を総合的に活用している。
 - ・様々な他者と協働する中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合っている。

○総合的な学習（探究）の時間の評価について

評価の観点は、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、**各学校が設定するという枠組みが維持されていますが**、資質・能力の三つの柱で再整理された学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するためにも、資質・能力に関わる「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」の**3観点に整理し示されました**。

なお、指導要録については、これまでどおり、実施した「学習活動」、「評価の観点」、「評価」の三つの欄で構成し、その児童生徒のよさや成長の様子など顕著な事項を**文章**で記述します。

○研究会のお知らせ

第10回中国地区小学校生活科・総合的な学習の時間研究大会（島根大会） 11月2日（木）
邑南町立瑞穂小学校、邑南町立石見東小学校

高等学校 総合的な探究の時間

重点1 探究の過程を中心に据える

探究の過程を経由し、それが繰り返される学習になるようにしましょう。

- 「探究の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が発展的に繰り返される学習活動となっている。

重点2 学習内容、学習方法を見直す

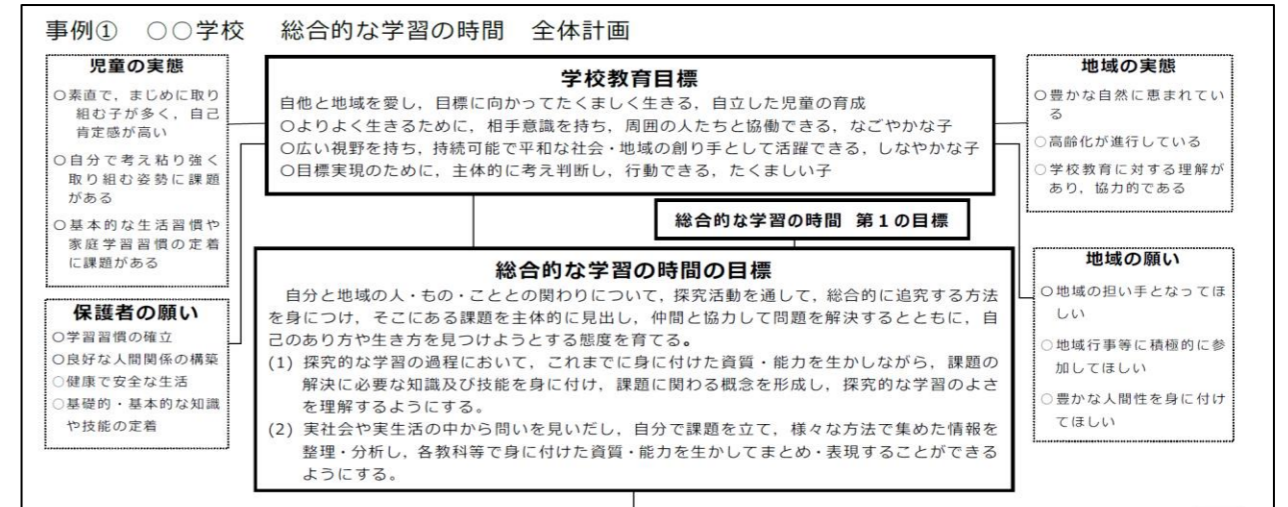
学校ごとに「目標」および「内容」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。「内容」は「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなります。

- 生徒にとって必要感のある課題、実社会・実生活に係る課題を取り扱い、生徒の興味・関心等に基づく学習となっている。
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習となっている。
- 体験活動、観察・実験・実習・調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れている。
- 小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が展開されている。

重点3 各教科等との関連を図る

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な探究の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を育成する取組となっている。



総合的な学習の時間の内容					
学年	3年	4年	5年	6年	
テーマ	町づくり	環境	食	福祉	
探究課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	身近な自然環境とそこに起きている環境問題	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者	身の回りの高齢者等とその暮らしを支える仕組みや人々	
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識	地域のよさや地域に住む人々の思いを理解することができる。	環境を守ろうとする人々の思いや工夫を理解することができる。	地域の農業のよさと課題、携わる人々の願いを理解することができる。	高齢者等の思いや願い、暮らしを支える仕組みを理解することができる。
	技能	地域に昔からあるものを大切に扱ったり、地域の人に挨拶をしたりするなど適切に接する。	4R(リデュース・リユース・リサイクル)について、学校や家庭で自分ができることを行う。	家庭科の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。	日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者等に適切に関わる。
	探究的な学習のよさの理解	地域を大切にしたいという自分たちの思いの姿や、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。	ごみを少なくする、分別する等の意識や行動の姿や、環境問題や環境を守ろうとする人々の工夫について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の姿や、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	高齢者等への接し方など自分の意識や行動の姿や、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気付く。
	知識及び技能思考力・判断力・表現力等	課題の設定	身近な環境に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながフィールドワークの計画を立てることができる。	自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。	多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積することができる。
	情報の収集	人に聞いたり、図書館やICTを活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。	集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見付けることができる。	いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係性を考えることができる。	適切な思考ツール等を選んで情報を整理し、情報と情報にあるか、見いだすことができる。
整理・分析	集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理することができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現することができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	
まとめ・表現	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現することができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	
主体性・協働性	身近な人と力を合わせて課題を解決しようとする。	身近な人と協力して探究活動を行おうとする。	他者と協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。	自分と身近な実生活・実社会の問題解決に他者と協働して進んで取り組もうとする。	
自己理解・他者理解	課題解決の中で、自分の考えと異なる意見や考えがあることを知ろうとする。	探究活動の中で、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。	探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとする。	探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。	
将来展望・社会参画	地域との関わりの中で、自分のできそうなことを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分のできそうなことを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分のできそうなことを見付け、実践に移そうとする。	地域との関わりの中で、地域にとって必要なことと自分のできることを検討し、実践に移そうとする。	

【学習活動】	【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・多様な人々と協働して解決する必要がある探究課題を設定する。	・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・学習内容によってはSDGsを意識し、持続可能な社会について考えられる指導の工夫をする。	・地域コーディネーターを中心に地域教材の活用や地域の人々、◇◇大学との連携・調整を行う。 ・全職員による指導体制を確立する。	・キャリアパスポートを活用した評価の充実を図る。 ・個人内評価を重視する。 ・発表会（異学年交流も含む）を利用した評価を取り入れる。

○「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」配付

小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を普及するために、ガイドブックを配付し、研修を実施しています。

